

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 2 月号

千葉県産農産物をより効果的に売り込むために

～ 千葉県フェアの新たな取組：秋冬連続フェア ～

流通販売課 首都圏マーケティングセンター
副主査 間宮 悠介

首都圏MCでは、千葉県産農産物の魅力発信と販売促進のために量販店などで「千葉県フェア」を開催してきました。本年は県産農産物の出荷最盛期に集中して行う「秋冬連続フェア」を新たに試み、より効果的なフェアの実施を図っています。

1 実施の背景

流通販売課首都圏MCでは、JA全農ちば、卸売業者と連携し、首都圏における県産農産物の魅力発信と販売拠点の確保・拡大を目的に、販売促進月間と連動して、旬を迎えた青果物を中心としたフェアを量販店等で継続的に実施してきました。フェアでは、商品の集中陳列による販売のほか、試食宣伝員や販促資材による産地PRなどを行っています。平成22年から継続的に取り組んできた結果、各店舗での自主的な千葉県フェア開催や、本県産野菜が定番化する等の効果が出ています。

一方で、フェアが3か月に一回のため、フェアをしてもすぐに産地が切り替わってしまう店舗があることや、6、9月といった本県産青果物の少ない時期には集中陳列を行いつらい等の課題もありました。

2 秋冬連続フェアについて

本年から取り組んでいる秋冬連続フェアでは、11月から2月にかけて同一店舗において毎月連続でフェアを実施し、以下のような効果を期待しています。

- ・本県の秋冬野菜の出回り時期に実施することによる県産野菜の継続した売場の確保
- ・同一店舗で集中的に行うことによる、消費者や店舗担当者への、千葉県産取扱いの愛着強化
- ・開催期間が既存のフェアよりも長いことによる、展示・陳列方法等のフェア中の迅速な軌道修正

本年は初年度ということもあり、JA全農ちば・卸売会社との連携の下、積極的に協力できる店舗に絞って開催しています。

また、今までの販売促進のノウハウを生かし、より効果的なフェアにするため、関係者で定期的な打合せを持ち、関係者の一体感を大切にしています。

3 チーバくんの着ぐるみの活用

フェア効果の更なる向上のため、チーバくんの着ぐるみを活用し、集客力アップを図っています。特に親子連れがチーバくと触れ合うため足を止めるので、千葉県産農産物の商品説明やフェアの紹介などを、じっくり行うことができました。また、チーバくんにはPR看板を掲げ、「教えてちばの恵み」のホームページ告知を行うなど、関連事業へのより踏み込んだPRも行っています。



フェアでのチーバくんの活用の様子

4 実施した効果と今後について

今後も売場の改善や、メニュー提案、チーバくんを活用した告知などを併用し、千葉県産農産物の魅力発信と量販店での新たな売場確保のためにフェアを開催していきます。結果については県HP「園芸市場情報」などで発信していく予定ですので御覧ください。



フェアでの集中陳列の様子

新規就農者の確保と定着に向けて

— 就農相談から見える就農希望者の意向 —

公益社団法人 千葉県園芸協会
千葉県青年農業者等育成センター

千葉県青年農業者等育成センターが関係機関と連携して行っている「相談窓口」を訪れた就農相談者は、比較的若く、半数以上が独立経営を目指している一方、雇用就農を希望する方も半数存在し、人材確保に向けた雇用環境の大切さが示唆されました。

千葉県青年農業者等育成センター（千葉県園芸協会）では、関係機関と連携して就農希望者の確保と定着に向けた事業を実施しています。

この事業の中で行っている「相談会」（東京、千葉で実施）や、「農業無料職業紹介事業」は、新規就農希望者にとっての入り口となるところで、新たに就農を希望する人の農業に対する様々な思いをうかがうことができます。

ここでは平成 27 年 4 月から平成 28 年 12 月の間に相談を訪れた人たちの実態を紹介します。



就業相談会の様子

【 就農希望者の状況 】

1 若い人の比率が高い

表 1 に示したように 20、30 歳代の割合が 2/3 を占め、40 歳代まで含めると 9 割以上でした。国の青年就農給付金制度が 45 歳未満を対象にしている影響もあって、以前に比べて高年齢層の人が減り、若い人の率が高くなっています。

表1 相談者の年齢構成

年代	平成27年度	平成28年度
10歳代	4.0 (%)	2.8 (%)
20歳代	32.7	30.3
30歳代	34.7	37.6
40歳代	26.1	22.9
50歳代	2.0	6.4
60歳代	0.5	0.0

*平成28年度は4月1日～12月28日（表2も同じ）

2 農業経験者は少ない

就農を希望する方のほとんどは会社勤務の経験者などで、本格的に農作業を経験した人は少ないものの、半数程度は農業体験や農家手伝い、実習などの経験をもっています。

3 相談内容から見た就農の意向

平成 28 年度に相談を訪れた人数は前年度に比べて大幅に減少している状況です。就農に向けての相談内容を大きく分類してみると、雇用就農を目指す方が 1/3、独立就農及び当面雇用就農していずれは独立を目指す方が約 1/2、就農を希望しているが情報収集や体験・研修を希望する方が 1/4 と、類似していました。また、大規模生産者や法人など、地域の中核経営体への雇用就農あるいは独立への第 1 ステップとして雇用を考えている方も半数以上いることが分かりました。そして、雇用就農希望者が雇用先を判断する基準は、第 1 に栽培作目や栽培体系、第 2 に給与額、第 3 に保険や年金などの福利厚生関係であることが共通してうかがえました。

表2 相談内容から見た就農意向

相談内容	平成27年度	平成28年度
雇用就農	35.1 (%)	33.0 (%)
雇用就農→独立	15.6	18.3
独立就農	36.2	36.7
情報収集・研修他	26.7	26.6
計	113.6	114.6

【 優れた雇用労働力の確保に向けて 】

今後、規模拡大や法人化の動きは一層進むことが予測されますが、農業経営者にとって、将来、自分の経営の中核的存在となる人材の確保は重要な課題です。雇用による人材確保を図る上で、待遇、福利厚生などの雇用環境の大切さが改めて示唆されました。

千葉県青年農業者等育成センター

TEL 043-223-3008

<http://www.chiba-engei.or.jp/>

野菜ニュース



農業大学校 輸出にチャレンジ！

千葉県立農業大学校 農学科
准教授 平野 堅一

生徒と共に、マレーシアで需要の高い、小さめのサツマイモ「べにはるか」の目標収量 3 t を減収させず生産し、現地で輸入業者へのヒアリングや消費者に販売促進を行うことで、輸出拡大に向けた課題やマーケットについて調査をしました。

1 背景及び目的

千葉県の主要品目であるサツマイモがマレーシアで好評価を得ています。

マレーシアでも sweet potato が生産されていますが、千葉県産の「べにはるか」は甘くしっとりとした食感が好まれ、特に家庭で調理しやすく、子供でも食べやすい小さめの S 等級 (100g~200g) が好まれています。

そこで、生徒の卒業論文テーマとして、単位面積当たりの収量を落とさず、S 等級品割合を高める目的で密植栽培を行いました。また、サツマイモの輸出拡大を一層図るため、本校の模擬会社の生徒とマレーシアで販売促進を行いました。

なお、イモの曲がりなどの障害については、株間 15 cm 区はやや多い傾向がありました。

(3) 考察

J A から提供していただいた各等級別単価から 10a 当たりの売上を試算した結果、25 cm 区の約 52 万円が最も優れ、収量・売上を落とさず、S 等級割合向上を目的とした密植栽培は 25 cm 区が最も優れている結果となりました。

一方で、4 区とも SS 等級が多かったことから一株当たりの肥料成分が不足した可能性や植付け時期の遅れが影響した点は次年度以降の課題となっています。

2 試験内容と結果

(1) 試験方法

畝間 1m、株間 30 cm、25 cm、20 cm、15 cm となる 4 つの試験区を設け、平成 28 年 6 月 8 日に植え付けました。

(2) 結果

出荷収量が最も多かった株間は 25 cm 区で、3, 134kg/10a ありました。また、S 等級割合が高くなった株間も 25 cm 区で 50% (1, 567kg) でした (図 1)。

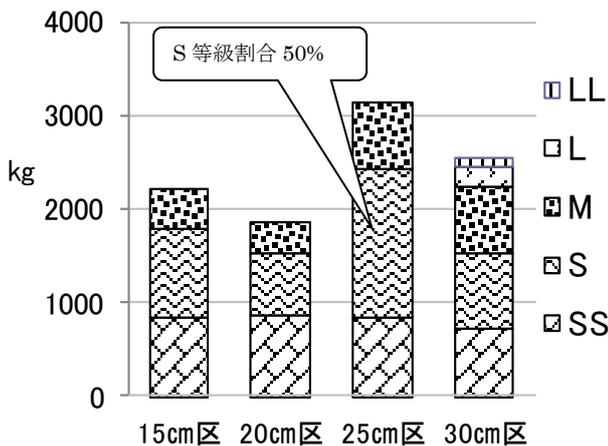


図 1 10a 当たり出荷収量
(各区 10 株より試算)

3 マレーシアでの販売促進



マレーシアで行ったアンケート調査では、94%のお客様に「おいしい」又は「とてもおいしい」と回答していただきました。輸送コストや保管方法など、まだ課題はありますが、マレーシアでの販売促進やアンケート調査から「べにはるか」に大きな期待を感じました。

また、生徒たちもグローバル化される社会の中で、新しい価値を創造してくれたのではないかと思います。

果樹ニュース



マルチ処理によるナシ幼木の生育促進

農林総合研究センター 果樹研究室
研究員 戸谷 智明

ナシの改植では、定植した苗木の初期生育を促すことが重要です。農林総研では、定植した苗木の株元に農業用ポリエチレンフィルムで被覆（マルチ）することで、樹の初期生育を向上させる方法を開発しました。今回は、その効果と方法を紹介します。

1 マルチ処理の効果

1 年生苗木にマルチ処理を 3 年間継続して行った結果、定植 1 年目のマルチ区における新梢の長さは、無処理区の 1.2 倍となりました。定植 2、3 年目では新梢の発生本数や総伸長量が無処理区に比べ 2 倍に増加しました。1 年生苗木を定植した 1 年目は早期に摘心して本数を制限することで、主枝として使用する新梢を長く太くすることができます。また、1 年生苗木の定植 2 年目以降や大苗を定植した場合は、新梢の発生本数を増加させることで側枝候補の確保が容易になり、樹全体の生育向上につながると考えられます。その結果、マルチ処理した樹では、無処理区と比べ着果数を多くできます。大苗（2 年育成）を利用した事例では、定植 2 年目の着果数は無処理区の 2 倍に増加しました。果実の大きさや品質に差はありません。

2 マルチ処理の仕方

マルチ処理は、農業用ポリエチレンマルチ（厚さ

0.02 mm、透明）を用い、4 月後半から株元を被覆します。被覆する範囲は、1 年生苗木を定植する場合は、1 年目が縦横 0.5m、2 年目が 1m、3 年目が 1.5 m です。大苗（2 年育成）を定植する場合には、1 年目が縦横 1.4m、2 年目が 2m です。被覆時の施肥には、ロング 413（溶出期間 270 日）を用いて、年間窒素成分量の 70% をマルチの下に施用します。マルチをすると、7 月以降は乾燥するので、マルチの合間からかん水します。また、除草はマルチの合間から手を入れて適宜行います。マルチは、11 月に剥がします。

3 注意点

マルチ処理の効果は、黒ボク土において確認しています。その他の土壌で処理した場合の効果は現在調査中ですので、結果が得られ次第お知らせします。また、本技術は苗木を定植して 1 年目からマルチすることが前提となります。マルチ処理は、定植 2、3 年目まで継続して行うと効果的です。



写真 定植 2 年目の生育状態（左：マルチ、右：慣行）

頑張る産地



さつまいも専用貯蔵庫導入による経営改善

香取農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 澁谷 圭子

さつまいも専用貯蔵庫は低温エアコンを装備し、さつまいもの品質を長期間安定して保つことができます。専用貯蔵庫の導入により、貯蔵中の腐敗や退色等によるロスの軽減、5月以降出荷による収益向上、また、フォークリフトによる作業負担の軽減等の経営改善が期待できます。

1 はじめに

さつまいもの収穫のピークは 10 月ですが、収穫物の 6 割は専用貯蔵庫で一旦貯蔵した後、順次出荷されます。そのため、さつまいも経営では貯蔵管理が安定出荷のポイントとなっています。

香取地域では、さつまいもを長期間計画的に出荷できるようにするため、平成 23 年の J A かとり、J A 佐原のキュアリング貯蔵庫整備に併せて農家の専用貯蔵庫整備を推進してきました。

認定農業者等を対象にした県単補助事業の活用により、平成 27 年度までに 5 戸の農家が専用貯蔵庫を整備し、平成 28 年度は 4 戸が整備中です。

2 さつまいも専用貯蔵庫導入事例

香取市の古川幸男さん(59 歳)は、さつまいもを基幹とする露地野菜専作農家で、さつまいも作付面積は 4.3ha で、溝穴、ハウス簡易貯蔵、ハウス地下貯蔵、J A キュアリング貯蔵庫等の貯蔵方法で、8 月から翌年 6 月まで出荷していました。

しかし、溝穴とハウス簡易貯蔵は外気温等の影響を受けやすく、さつまいもの品質低下が問題となっていました。また、収穫作業に加えて、貯蔵の出し入れ、洗浄、選果等でのいもの移動も重労働で、この作業を改善したいと考えていました。

そこで、設備投資が必要となるものの安定した品質が得られる、さつまいも専用貯蔵庫を平成 25 年に導入しました。

(1) さつまいも専用貯蔵庫の特徴

さつまいも専用貯蔵庫は、内側は発泡ウレタンを吹き付けて断熱し、低温エアコンで温度を制御し、換気扇と換気送風機で庫内空気を循環します。床面は、コンクリートと断熱材を敷設します。また、天井と側面に調湿資材を展張して湿度を確保し、乾燥時には床面に水を流し入れます。



貯蔵庫全景

(2) さつまいも専用貯蔵庫導入の効果

専用貯蔵庫の導入により、さつまいもの腐敗や退色、萌芽などによるロスが減少しました。また、フォークリフトでの作業が可能になり、作業負担が軽減しました。さらに、4 月以降外気温が上がってきても安心してさつまいもを貯蔵でき、にんじん等の他品目との作業競合を避けて出荷できるようになったことで、さつまいもの作付けを 5ha へと拡大しました。

今後は、低温エアコンの温度制御を生かしてベにはるかかを 9 月に収穫貯蔵し、11 月に出荷。その後ベニアズマを収穫貯蔵し、翌年 6 月まで出荷する貯蔵庫の 2 回利用で稼働率アップ、需要期の計画出荷による収益アップを目指しています。



貯蔵庫内作業中

「世界らん展日本大賞 2017」の開催

洋蘭、東洋蘭、日本の蘭など、世界各地の様々な蘭を一堂に集めた“世界の蘭の祭典”「世界らん展日本大賞」が「蘭に、ときめく。」をテーマに本年も下記のとおり開催されます。

今回で 27 回目を迎えるらん展は、20 の国と地域から約 3000 種、約 10 万株の蘭が展示され、世界を代表する蘭の祭典となっています。

日本大賞の審査は、全 6 部門で行われ、そのうちディスプレイ部門では、フラワーデザイナーや華道家だけでなく、蘭愛好家のグループや学生、生産者が出展し、その技術とセンスで蘭の魅力をいかに引き出せるかを競います。

本県からは、千葉県洋らん生産者組合が出展する予定となっております。

らん展の詳細については、ホームページで御確認ください (<http://www.jgpweb.com/>)。

記

- 1 主催：世界らん展日本大賞実行委員会
- 2 会場：東京ドーム
(東京都文京区後楽 1-3-61)
- 3 日程：平成 29 年 2 月 11 日 (土) ～17 日 (金)
- 4 公開時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分
(入場は午後 5 時まで)
- 5 入場料金：前売券 1,900 円
当日券 2,200 円



前回優良賞を受賞した千葉県洋らん生産者組合の「蘭の滝 (Orchid Falls)」

第 37 回千葉県フラワーフェスティバル花き共進会結果報告

平成 29 年 1 月 5 日に行われた第 37 回千葉県フラワーフェスティバル花き共進会の審査結果は次のとおりでした。

○出品点数 567 点

(鉢花 137 点、観葉 43 点、洋らん 63 点、切花 1 部 174 点、切花 2 部 150 点)

○入賞 111 点 (特別賞 33 点、金賞 78 点)

主な特別賞受賞者

賞名	品目	受賞者
農林水産大臣賞	シクラメン	高橋 康弘
千葉県知事賞	グズマニア	林 健一郎
千葉市長賞	きんぎょそう	小泉 輝子
千葉県議会議長賞	カトレア	関谷 秀昭
農林水産省生産局長賞	カラー	長谷川 弘
関東農政局長賞	LAユリ	柴山 明彦
公益社団法人 千葉県園芸協会会長賞	ファレノプシス	薦岡 広明
一般社団法人 千葉市園芸協会会長賞	カーネーション	渡辺 健一郎
NHK 千葉放送局長賞	斑入りタコノキ	古川 浩信
千葉県農業協同組合 中央会長賞	ベゴニア	飯田 健司
千葉県花き園芸組合 連合会長賞	ブーゲンビリア	石井 孝

(他 22 賞)

